

実結かけ袋った張頑

豊北小児童、梨狩り体験に笑顔

県内有数の赤梨の産地、下関市豊北町で28日、同町滝部（注）の豊北小学校の児童が近くの約10ヘクタールのみずみずしい実を両

手に抱え、笑顔を見せた。

参加したのは今年6月、同農園で果実を病害虫から守る袋かけ作業を手伝った3年生24人。農園の関係者から「両手で下から持ち上げるように」ともぎ方を教わった後、食べ頃を迎えた「新興」の実を1人二つずつ収穫した。

袋かけでは直径3センチ前後の若い実に苦勞しながら紙の袋を一つ一つかぶせただけに、木下姫花さん（9）は「大きくなってうれしい。お母さんと一緒に食べたい」と話した。

中原農園は東京ドーム二つ分の約8ヘクタールで13種類の赤梨を栽培。今年は猛暑や少雨の影響でサイズは小ぶりながら甘みが強いといい、10月前半まで収穫シーズが続く。

大きく育った梨を収穫する児童＝28日、下関市豊北町滝部

